

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2021 年 4 月 13 日
報告者	大道 生枝
助成団体名 (所属団体名)	若者自立支援ボランティア Group 居場所の会「レリーフ」
団体住所	〒 524-0051 滋賀 <small>都道府県</small> 守山市三宅町 70-34
団体電話番号	090 — 6064 — 1961
代表者 (助成対象者)	大道 生枝
助成対象事業	社会参加を模索する若者の支援事業
事業（助成）期間	2018 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日
事業費総額	1,089,911 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

生きづらさや不安を抱えている若者、社会に一歩踏み出したいと思っている若者が、家族以外の人たちと行う様々な作業や興味ある経験を通して、コミュニケーションを図りながら社会参加をめざせるよう活動しています。又、その家族には、個々で悩みを抱え込まず同じような悩みを持つ家族が相互に交流できる場を提供しています。

<基本的な活動>

(室内作業) -----〈場所〉守山市すこやかセンター・守山市民交流センター

- ・洋裁、編み物、手芸、折り紙教室、書道教室、牛乳パック玩具作り、音楽活動、英会話、パソコンでの名刺作成、年賀状作りなどを参加者の希望に添いながら行う
- ・行事や運営に関する課題を意見交換しながら検討する ・News の発行 ・会計作業

(農作業) -----〈場所〉レリーフ農園：畑・田んぼ

- ・畑：季節を感じながら農作物の種まき、植付け、収穫などを行い、作物の生育に合わせて杭打ち、シート張り、手付け、糞まき、草引きなどの作業を行う
- ・田んぼ：9月に稲刈り
- ・作業後にティータイムを持ち雑談する

(調理実習) -----〈場所〉守山市すこやかセンター栄養指導室

- ・調理担当者が材料購入し、調理内容を参加者に説明する
- 役割分担し90分程度で仕上げ、批評しあいながら試食する

<対外的な活動>

(就労体験) -----・県内外の農園などに出向き賃金を得る

(企業見学) -----・参加者の希望に沿った企業を選び、見学や仕事内容の説明を受ける

(体験教室) -----・参加者が興味を持っている事柄をより深く体験する

(宿泊体験) -----・就労体験や企業見学に合わせて、ビジネスホテルを利用し宿泊する

(ボランティア活動) -----・コミュニケーションの機会とし、作業を通して経験を積む

(バザー・模擬店出店) -----・フリーマーケットなどに参加し販売体験をする

<その他の活動>

(親の会) -----・親同士の横のつながりを深めることで、体験談を聞いたり、情報交換ができるなど
辛いのは自分一人ではないという気持ちを持てるように実施

(相談室) -----・カウンセラーによるカウンセリングの実施

(研修会参加) -----・講演会や若者サミットのような案内があれば会員全体に周知を図る

(オンライン) -----・Skype, zoom, ラインなどをレリーフ内で使えるようにする

3、事業成果

事業は 2018/4 から 2021/3 までの 3 年間である。

事業開始の 2018/4 から 2020/2 までの約 2 年間は事業内容に沿った活動が実施できた。

2020/3 から 2021/3 までの 1 年余は、新型コロナウイルス感染症対策により事業内容を大幅に変更した。特に対外的な活動の殆どが自粛を図る対象であり休止や中止となった。

<2020/3 以降コロナ対策による活動の変更>

- ・室内作業 → (貸館中止期間は農作業に変更) → 現在：室内作業再開
- ・農作業 → (作業後のティータイムは中止) → 現在：農作業終了後解散
- ・調理実習 → (栄養指導室の貸出休止中で調理実習できず) → 現在：室内作業に変更
- ・就労体験・企業見学・宿泊体験・模擬店出店 → 中止
- ・ボランティア活動・研修会参加 → コロナの感染状況によって中止対応あり

↓ 上記をふまえて

- ① 3 蜜を避けられる農作業の充実を図り、土壌改良や水揚げポンプ購入で畑を整備した。
- ② 対外的な活動として、守山市周辺での体験教室、文化施設見学を数回行った。
- ③ 親の会 2020/6 発足、カウンセリング相談室 2021/3 発足、室内作業ではミシンを購入し必需品となったマスク作りや販売、書道教室開始など身近な活動を増やした。

<3 年間の事業成果>

- ・室内作業 ⇨ 1 3 3 回
 - ・農作業 ⇨ 5 4 回
 - ・調理実習 ⇨ 4 1 回
 - ・就労体験 ⇨ * 契約農園でナスの定植、枝の誘引 2 回 * 果樹組合で梨の袋詰め 6 回
 - * 奈良県の農園で稲のはさがけ 4 回 * 茶摘み 2 回
 - * 郵便局年末年始アルバイト 2 人 15 日, 9 日
- いずれも各自時給 5 0 0 円～9 0 0 円くらいの収入を得る
- ・企業見学 ⇨ * 物流センター * もやし工場 * 醤油工場 * ギター製作所
 - * 段ボール工場 * 大阪ごみ処理場 計 6 回
 - ・宿泊体験 ⇨ * 奈良県、岐阜県のビジネスホテル宿泊 2 回
 - ・体験教室 ⇨ * 折り紙教室 1 回 * 陶芸教室 2 回
 - ・文化施設見学 ⇨ * 博物館、科学館、美術館 4 回
 - ・ボランティア活動 ⇨ * 障害者施設の清掃作業 3 3 回
 - ・その他の活動を含め 総回数 4 0 7 回 参加延人数 1 8 5 4 名 内若者 5 9 4 名

* コロナ禍ではあるが、若者から体験活動がしたいとの希望が出ている。希望をすべて聞き入れられないのは残念だが、若者と共にチャレンジしてきた成果だと考えている。

* コロナの影響は受けたが、農作業ができたことで 3 年間継続して居場所の役割を果たせた。

* 3 年間で新たな若者や家族が 2 0 組レリーフを訪れてくれた。しかし、付添い者と来た後、一人では通にくいこと、継続して通うまでには様々な支えがあったほうが良いことを感じている。

* レリーフ関わった 4 人の若者が現在、何らかの職業について働いている。それぞれが次のステップを模索して前向きに社会と向き合っている姿に明るい展望が開けているのを感じる。

4、今後の課題など

レリーフの課題

・拠点場所の確保

貸室を借りながら活動しているが、今回のコロナ禍においてやはり拠点場所の必要性を痛感した。

3蜜を避けられる農園があり、活動は継続できたが休止の可能性もあったと考えられる。

・親の会・カウンセリング相談室の充実

親同士の交流を通して、家族の負担を軽減することの大切さを実感している。

家族、若者自身を問わず、引きこもりを重視した専門家によるカウンセリングを通して、気持ちの整理や新たな気づき、視野が広がる機会となるよう重きを置いていきたい。

・中間的就労的な場所作り

単発的な就労体験は何度か行ってきたが、継続的な就労体験の機会を作っていきたい。

何らかの事業により、社会との接点を持ちながらも若者個人が支えられている状況を作ることが必要と考える。

・オンラインでの交流の場づくり

コロナの影響が大きく反映しているが、身近な場面でオンラインの必要性を感じている。

レリーフ内においても、オンラインを上手く使って交流を図ることを考えていきたい。

・レリーフ活動の継続発展

助成金による活動を展開しているが、限界があることを感じている。

次なる方法を模索中である。

若者への課題

・若者への継続支援

レリーフに1度は来られた若者が、継続的に来られない現状がある。

継続して通えるように、心の支えとなる存在が重要なカギになると考える。

自分の置かれている位置を分かってはいても、悩みを抱え一歩社会に踏み出す勇気が持てない若者がどのような対応を求めているのか考える必要がある。

・関係機関との連携

守山市・社協・他の関係機関などと連携しながら、若者個々への対応を考えていきたい。